

府営住宅ニュース

ふれあいリビング

笑顔が生まれる、
話が弾む「ふれあいリビング」が
住民同士の癒しの場所に。

少子高齢化が進む中、高齢者の閉じこもり対策や安否を確認しようとするかなど、さまざまな問題が少しずつ現れてきました。そんな中、家から近く、気さくに話を聞いてもらえて癒される場所を作りたい。この思いをかなえるために作られたのが「ふれあいリビング」です。今回新たに作られた3か所のふれあいリビングも、既存の集会所の一部を改修し、運営委員会によって、それぞれ経費を抑える工夫や、何度も訪れてもらう工夫が凝らされ、活発に活動しています。



和泉北信太住宅 ふれあいリビング 「水仙」

「ここに来れば知った顔とも会え、
家にいるよりも楽しい」
そう言ってくれる人が増えるように。

「昔から、食事会などを開催していた住民を中心に、ふれあいの場になればと開きました。準備中は大変なことも多く、どうなるかと不安もありましたがその反面、楽しみでもありました」とは運営委員長の米泉行夫さん。椅子やテーブルは、閉店する店から無料で譲り受けたものを使い、出費を抑えながら雰囲気盛り上げています。

「初めての経験だけれど、来てくれた人の“ご馳走さま”の言葉が何より嬉しいですよ」と米泉さんを助ける小林さんと成島さんも声を揃えます。若い世代の人も手伝いましょうと声をかけてくれ、住宅の外からも、住民の友達などがやってくるようになり、幅広い年代や地域との交流が実現しつつあります。



運営委員長の米泉行夫さん



清滝住宅 ふれあいリビング 「いこいの館」

入り口にノボリが立てば「やってます！」
人手が足りなければお宮も
即スタッフに、の臨機応変さ。



運営委員長の宮田 浩さん

曜日によって運営するグループが自治会、地区福祉会、老人会と違うので、雰囲気それぞれ異なり、それも特色となっています。顔は知っていたが名前を知らなかった人とも、ここでは気軽に声を掛け合えて、つながりが広がっていると好評です。

リサイクルの椅子やテーブルを並べた中、それぞれが持ち寄った好みの音楽をバックに、和やかな時間が流れます。「ここができてからは、耳の悪い方への自治会の報告も、手話通訳を招いてお茶を飲みながら双方向で行えるようになりました。今までわからなかった来客用駐車場の使い方がわかったと喜んだ人も」と運営委員長の宮田浩さんは顔をほころばせます。



寝屋川御幸西住宅 ふれあいリビング 「リビング・はなみずき」

手伝う人とやってくる人・・・。
住んでいる人同士の輪をつなぐ、
安らぎの場所として。



運営委員長の垣野文夫さん

「住民の全員参加を目指したい」、そんな思いが小さな工夫に込められています。花一杯の通路を抜けて集会所に入れば、手作りの小物が飾られた空間が広がり、スタッフの笑顔と「どないしてたん？」の暖かい声が迎えてくれます。近所にどんな人が住んでいるのか関心を持たない人が増える世の中、「ここで顔見知りになっていたら、例え道端でうすくまっていたとしても、声をかけやすいでしょう」と運営委員長の垣野文夫さんは話します。オープン時には全戸にコーヒーのチケットを配り、初めてリビングに来た方にはささやかな記念品を渡したりして人を集める努力も。



注) この記事は、2006年夏号のふれあいだよりに掲載されたものです。内容はすべて掲載当時のものです。